

## 第 46 回眼科メディカルスタッフスクーリング確認試験

### 【光学の基礎】

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各 1 点)

- 1) 光は電磁波の一種である。
- 2) 球面レンズには、光を収束させる凹レンズと光を発散させる凸レンズがある。
- 3) 円柱レンズでは、軸と直角の方向に度が入っている。
- 4) 光の速さは密度の高い物質を通過するとき速くなる。
- 5) 1 プリズムジオプトリーのレンズにより光の屈折される角度は  $0.5^\circ$  である。

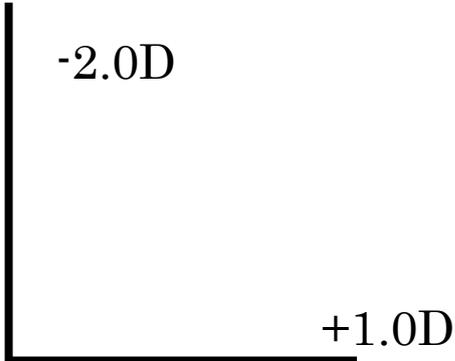
### 【視力検査】

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各 1 点)

- 6) 単に視力とは言えば通常 5m 先の裸眼視力のことを言う。
- 7) 裸眼視力が不良の場合は屈折異常と診断してよい。
- 8) 通常は片眼視力より両眼開放視力の方が良い。
- 9) 高齢者では読み分け困難があるので字一つ視力より字つまり視力の方が良い。
- 10) 視力検査は被検者の集中力を高めるためじっくり行う。
- 11) 視角が 5 分のときの視力は 0.2 である。
- 12) 0.1 以下の視力の場合は 0.1 の視標を見えるまで近づけ、2 m で見えれば視力は 0.02 である。
- 13) 小児の視力検査はランドルト環字一つ視力表で短時間に行う。
- 14) 眼鏡フレームの幾何中心とレンズの光学中心は一致しない。
- 15) 遠用眼鏡の光学中心間距離 (PD) は瞳孔間距離 $-2\text{mm}$ である。

【眼鏡レンズ】

16) 次のレンズの表記は③である。(5点)



レンズ表記

- ①  $S+1.0D=C-2.0DAx180^\circ$
- ②  $S+1.0D=C-3.0DAx90^\circ$
- ③  $S+1.0D=C-3.0DAx180^\circ$
- ④  $S+1.0D=C-2.0DAx90^\circ$

【屈折、調節とその異常】

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各1点)

- 17)  $C+1.5D A90^\circ$  は単性遠視性直乱視である。
- 18)  $S+0.75D=C+2.0D A180^\circ$  は混合(雑性)倒乱視である。
- 19)  $S+1.0D=C-3.5D A90^\circ$  は複性遠視性倒乱視である。
- 20)  $S-1.0D=C-1.5D A90^\circ$  は複性近視性直乱視である。
- 21)  $C-2.0D A180^\circ$  は単性近視性直乱視である。

【視器の構造】

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各1点)

- 22) 眼球外膜は角膜・強膜でできている。
- 23) ぶどう膜は、虹彩、毛様体、脈絡膜の総称である
- 24) 眼球内膜は、脈絡膜に相当する。
- 25) 眼球内容は、房水、水晶体、虹彩で構成されている。
- 26) 水晶体は透明な厚い凸レンズの形をしている。

**【自覚的屈折検査、眼鏡処方】**

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各1点)

- 27) 自覚的屈折検査では、調節が入りやすく、屈折値がプラス寄りに測定されることに注意が必要。
- 28) 屈折値として最良の視力を得る最もプラスよりのレンズを採用する。
- 29) 調節力の関与を軽減する方法としては、調節麻痺剤点眼や雲霧法がある。
- 30) 自覚的に乱視検査法としては乱視表による方法やトノメーターを用いる方法がある。
- 31) 近視眼を矯正中、赤緑テストにおいて緑地の視標の方がはっきり見えれば過矯正である。

**【他覚的屈折検査】**

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各1点)

- 32) 通常、他覚的屈折検査は自覚的屈折検査の後に行われる。
- 33) 他覚的屈折検査の誤差の原因の一つに調節力の介入がある。
- 34) 加齢とともに調節力は弱くなる。
- 35) 検査に用いられる調節麻痺剤の一つにアトロピン点眼がある。
- 36) 検影法で、影行の種類には同行、逆行と中和がある。

**【視機能について(屈折以外)】**

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各1点)

- 37) 中心外視力とは、黄斑中心窩から外れた部分の視力をいい、中心視力に比べると不良である。
- 38) 視力が不良とは、裸眼視力が不良であることをさす。
- 39) 視野は固視点を中心として、固視点より約 30° 以内の視野を中心視野、それよりも外側の視野を周辺視野という。
- 40) 眼底で視神経の位置は暗点(マリオット盲点)となり、暗点はちょうど注視点から鼻側 15° のところにある。
- 41) トンネルに入った時のように、明るいところから暗いところへ移動した時、徐々に眼が慣れてくる現象を暗順応といい、順応は数十秒で完了する。加齢に伴い順応は早くなる。錐体細胞がよく働いて起こる現象である。
- 42) 色覚異常は男性よりも女性に多く見られる。

- 43) 眼球運動の中枢は大脳皮質にあり、眼球運動にはひき運動、むき運動、よせ運動、まわし運動がある。
- 44) 上斜筋は滑車神経によって支配されている。
- 45) 立体視とは物を立体的に見る感覚で、立体視は片目でも成立する。
- 46) 瞳孔は正常では円形で、約 4 mm、左右差は正常眼では 1.0mm 以下、迅速な対向反応がある。瞳孔の左右差や対光反応の異常は、眼の疾患だけでなく、脳内の異常でも生じる。

#### 【視野、眼圧検査】

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各 2 点)

- 47) アプラネーショントノメータのメジャリングプリズムを扱うときは、院内感染と角膜障害の予防が大切である。
- 48) ノンコンタクトトノメータによる測定では、空気が吹付けられるので瞬目を我慢して大きく開眼するように伝える。
- 49) マリオット盲点が固視点の右側 15° にある視野は、左眼の視野である。
- 50) 自動視野計による測定では、測定中に検査員がその場を離れてもよい。
- 51) 応答に偽陽性が多い視野検査の結果は、異常を十分検出できていない可能性がある。

#### 【斜視の検査】

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各 1 点)

- 52) 動眼神経麻痺では眼球が内転し、眼瞼下垂が生じる。
- 53) 上斜筋麻痺は、頭部傾斜など特有の頭位異常を生じる。
- 54) ティトマス・フライ・テストは、赤緑フィルターを使って検査する。
- 55) 調節性内斜視の治療には斜視手術が必要である。
- 56) 片目つむりは間欠性外斜視でよく見られる。

**【コンタクトレンズの基礎】**

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各1点)

- 57) 現在の主流は2週間定期交換型のソフトコンタクトレンズである。
- 58) 定期交換型ソフトコンタクトレンズは、毎日こすり洗いをして、コンタクトレンズを目に入れたあとは、ケースを洗浄しなくてはならない。
- 59) ハードコンタクトレンズの直径は14.0ミリ前後、ソフトコンタクトレンズの直径は9.0ミリ前後が多い。
- 60) コンタクトレンズによる慢性合併症は、アレルギー、ドライアイ、酸素不足である。

**【角膜と屈折矯正手術】**

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各1点)

- 61) 屈折値が安定している18才以上が適応年齢である。
- 62) エキシマレーザー手術では近視については原則として6Dまでが適応である。
- 63) 有水晶体眼内レンズ手術では、白内障症例がいい適応である。
- 64) LASIKでは術後にハローやグレアをおこす可能性があり、夜間運転は注意が必要である。
- 65) 有水晶体眼内レンズ手術は角膜を削らない手術であるため、強度近視にも対応できるが、内眼手術であるため、術後感染性眼内炎のリスクがある。

**【眼科疾患の基礎知識】**

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各1点)

- 66) 小学1年生の児童に眼瞼内反を認めた場合、成長と共に軽快することはないので手術が必要である。
- 67) 70歳の方に角膜びらんを伴う明らかな眼瞼内反を認めた場合、眼の強い異物感を自覚しているが軽快する可能性が高いので手術は必要ない。
- 68) ハードコンタクトレンズを長期使用していても、眼瞼下垂の原因となることはない。
- 69) ドライアイには、涙の質的な異常と量的な異常がある。
- 70) 白内障があれば、不自由なく良く見えていても積極的に手術を勧める。
- 71) 結膜炎には、感染性のものと非感染性のものがあり、流行性角結膜炎はエンテロウイルスによる感染力が強い感染性結膜炎のひとつである。

### 【眼科用薬剤】

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各1点)

- 72) 薬剤は、主作用が強ければ副作用が強くても全く問題ない。
- 73) 2つ以上の点眼薬を使用する場合、間髪入れずに2本目を点眼する。
- 74) 緑内障に用いられる降圧剤の第一選択は、プロスタグランジン関連薬である。
- 75) 点眼薬の種類を増やす場合、患者のアドヒアランスに注意する必要がある。
- 76) ジェネリックは安価な分、先発品よりも薬効が劣る。
- 77) 感染性の疾患では積極的にステロイド点眼を使用すべきである。
- 78) 狭隅角の場合、散瞳剤としてミドリンPを使用するのは禁忌である。
- 79) ベノキシールは痛み止めとして使用するが、処方出来ない。
- 80) 点眼薬には防腐剤が入っている為、開封後も使用期限はない。
- 81) 抗生剤でも点眼の場合は、耐性菌を気にする必要はない。

### 【眼科受付、医療保険】

次の文章の内容で正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。(各1点)

- 82) 眼科受付スタッフは、清潔な身だしなみ、正しい言葉遣い、正確な保険請求知識、笑顔の対応だけでなく、患者さんへの気配りや時として毅然とした態度も求められる。
- 83) 心配してわざわざお見舞いに来られた患者さんの上司の方に、患者さんの病状を丁寧に説明して納得していただいた。
- 84) 初診時に保険証コピーを持参された場合は、その記号、番号、有効年月日を確認し、間違っていなければ、保険診療として受け付けることができる。
- 85) スタッフの家族が来院した。スタッフの家族なので窓口一部負担金は徴収しなかった。
- 86) 電話で患者さんや家族の方が病状等を尋ねてきた場合は、自己判断で勝手に答えずに、状況を見て医師に内容を伝え、医師の指示とおりに行動する。
- 87) 問診は医師の仕事である。問診票を活用しても良い。問診票には患者氏名、年齢、性別、住所、電話番号、主訴、現症、既往歴(眼、全身)、家族歴、薬剤アレルギーなど必要項目が必要で、記載事項は個人情報として医師及びスタッフには守秘義務が生じる。
- 88) 日本の医療保障制度は、医療保険 [社会保険(会社等の組織が主体となる職域保険)、国民健康保険(地域保険)]、後期高齢者医療、公費負担医療に大きく分けられる。
- 89) 窓口負担割合は、3歳の幼児では全て3割、後期高齢者では全て1割となる。

- 90) (両)加齢性白内障の初診患者さんが来院された。屈折検査と矯正視力検査、細隙燈顕微鏡検査、眼底検査(両眼)、眼圧検査、角膜曲率半径を入力し算定した。この場合、明細書傷病名欄に、(両)加齢性白内障の記載があれば屈折異常傷病名は不要である。
- 91) 令和 5 年現在、大阪府や大阪府内市町村独自の医療費助成としては、乳幼児医療費助成、ひとり親医療費助成、障害者医療費助成、老人医療一部負担金助成制度がある。